

令和7年 市政ふれあい懇談会要旨

■開催日時 令和7年11月23日(日)14時～15時

■開催場所 近隣センターふさの風

■参加者 市民9名

■出席者 星野市長、高見澤企画総務部長、中光財政部長、海老原市民生活部長、
大井環境経済部長、海老原建設部長、中場都市部長、担当課長等13名

■懇談要旨

質問・意見 1:湖北地区図書館と布佐駅トイレの課題、外国人対応について

市民:前々回のふれあい懇談会で、湖北台近隣センターの幼児コーナーを図書コーナーにしていただきたいという要望をお伝えしたところ、すぐにご対応いただき、早速 500 冊を配置していただきました。その後、市民の方からの寄贈などもあり、現在は 2,000 冊の蔵書でサービスを提供しています。貸出件数も 100 件以上となり、この半年余りで湖北地区に本が読めるスペースができたことに大変感謝しております。その間、5 月から 6 月にかけて市民の方々に図書館の設置場所や、どのような図書館が望ましいかについてアンケートを実施したところ、150 件近くの回答がありました。そのうちの半数の方が消防署の跡地を希望されていました。次に多かったのは保健センターを複合施設として活用する案で、少数意見としてスーパーマスタの 3 階や現在地、湖北台西小学校の敷地内などの意見もありました。消防署の建設や湖北小体育館の整備などで費用がかかることは十分承知しております。ただ、今回の図書コーナーの取り組みを通じて、市民の協力や空き店舗・空き家などの既存施設を活用することで、手作りの図書館を作っていくことは十分可能だと感じました。ぜひ、このアンケート結果を市としてご覧いただき、ご感想や今後の展望があればお伺いしたいと思います。

もう 1 点ですが、私の実家が布佐にあり、たまに布佐駅を利用します。駅のトイレに 7 カ国語で「トイレトペーパーの持ち帰りは犯罪です」という表示が交通政策課の名前で掲示されています。実際に持ち帰りは犯罪かもしれませんが、「犯罪」とはっきり書かれていることに少し、もやっとなります。布佐駅は外国人の方が多く利用されており、乗降客数にもかなり貢献されていると思います。プラスになっている部分もある一方で、文化の違いから理解しあえていない部分もあると思います。外国人の方の居住も増えていますので、市として外国人の方々への対応をどのようにお考えなのか、お伺いしたいです。

回答 1-1: 布佐駅トイレの課題について

交通政策課長補佐: 昨年から、布佐駅の女子トイレに限って毎日トイレットペーパーがなくなってしまうという事案がありました。最初は日本語で注意書きを掲示しましたが効果がなかったため、7カ国語で表示し、少しきつめの表現にさせていただきました。また、トイレットペーパーを入れるボックスも付け替えましたが、それでもまだ持ち帰りが続いているため、継続して掲示しています。

日本語の部分については、表現を少し柔らかくすることを検討しますが、他の東南アジア系の言語については翻訳が難しく、どこまでが適切でどこまでがきついのか、私たちも勉強しながら進めている状況です。今後、ご意見をいただきながら、柔らかい表現で皆様に気持ちよく使っていただける形を目指したいと思います。

余談ですが、最近では男子トイレの自動水栓が破壊される事案や、便座自体が損壊される事例もあり、警察に被害届を出しています。日本人・外国人を問わず、そのような事案は発生していますので、事件が起きた際には複数の言語で表記し、皆さんに気持ちよく施設を使っていただけるよう対応してまいります。

回答 1-2: 外国人対応について

市長: 現在、我孫子市には約 4,600 人の外国人が住んでおり、年々増加しています。特に日本語学校の生徒が卒業後、介護施設で働いたり、近隣の大学に進学したりしています。利根町にある大学には 1,000 人以上の外国人留学生がいると聞いており、利根町でも学生への生活指導を行っていますが、なかなか効果が出ていないとのことでした。

我孫子市では、市内の日本語学校を通じて日本の生活習慣やマナーを教える働きかけを行っています。例えば、天王台の日本語学校では、学生と一緒にゴミ拾いを行ったり、生活習慣を学ぶ取り組みを積極的に進めています。一方で、あまり動いてくれない学校もあり、差があるのが事実です。

現在、日本では少子高齢化が進み、介護施設などで外国人労働者に頼らざるを得ない分野が増えています。市内の介護施設では 200 人の外国人が働いており、バスやタクシーの運転手も外国人に頼っている現状があります。

最近では、中国人が最も多かった時期もありましたが、現在はネパール人が最も多く、約 1,200 人に達しています。インド料理店の多くも実はネパール人が経営しています。

文化の違いから生じる生活習慣のトラブル、特にゴミ出しや駅での行動については、日本語学校や大学と連携し、現地の言葉で説明する取り組みを進めています。地域の方々にも協力をお願い

いし、粘り強く対応していく必要があると認識しています。

回答 1-3: 湖北地区図書館について

市長:湖北地区の図書館については、アンケートで150件の回答をいただきましたが、もう少し多くの意見が欲しかったというのが正直なところです。最も多かった意見は消防署の跡地でした。

新しい消防署が完成し、引っ越しが終わってから、旧消防署の建物を解体し、その後に土地の活用方法を決める必要があります。その間に、民間企業と協力して、例えば図書館を2階に設置するなどの提案を行っていますが、現時点では良い返事がない状況です。

また、湖北台西小学校の敷地を活用する案もありました。1、2年後には全学年が1クラスという状況になるため、敷地に余裕が出る可能性があります。

現在、建築資材の価格が高騰しており、湖北小学校体育館の建設費用も増加しています。また、昨年、久寺家中学校で外壁が剥落した事故を受け、市内の全中学校で緊急点検を実施しました。その結果、緊急度の高い学校施設の改修工事が最優先となっています。子どもたちが安全に学校を卒業できることが何よりも大切ですので、こちらを優先して対応します。

さらに、湖北小学校の体育館については、現在の5年生の卒業式に間に合わせる方針で進めています。工事期間を12ヶ月確保し、2月中には工事を終わらせ、3月の卒業式を新しい体育館で迎えさせたいと考えています。

また、五本松運動広場では、サッカー場やラグビー場、陸上競技場の整備を進めています。サッカー場も現在、利根川河川敷の「ゆうゆう公園」にありますが、大雨が降ると水没してしまうため、また、子どもたちから400メートルトラックの要望が長年寄せられており、このチャンスを逃したくないということで、整備を進めています。

このような状況の中ですが、湖北地区の図書館については、作る前提で検討を進めています。空き店舗を活用する案については、暫定的な活用として皆さんの了解が得られるのであれば、選択肢の一つになると考えています。地域の皆さんと意見交換を重ね、自治会や町会を通じて意見をまとめていただければと思います。

質問・意見 2: 平和台線の運行と布佐駅周辺の課題、外国人対応について

市民:令和8年度については、あびバスで本格的に運行を開始するとのことですが、あびバスになった際、運行時間帯は今と変わらないのでしょうか。増えるのか、それとも減る方向なのか、そうであれば、朝とか夜に運行時間を廻すことが出来るのかお聞きいたします。

また、新木駅周辺は発展していますが、布佐駅はスーパーがなくなり、建物は残っていますが、テナントが入る予定はありますか。布佐駅の利用客も外国の方のおかげで増えていますので、駅周辺を明るくしたいと思います。何か情報があれば教えてください。

先ほど、布佐駅のトイレでトイレトペーパーが持ち帰られる件についてお話がありましたが、他の場所ではウォシュレット自体が盗まれることもあるので、まだ可愛い方だと思います。余談ですが、JR では成田線の列車内で外国人の方が電話をし続けていて、日本人の方はルールを守っているのに、文化の違いから不快に感じる方もいます。JR 東日本では、成田線沿いで社員が声かけ運動を行い、電話をしている方にチラシを配るなどの対応をしています。市としても、大学に任せるのではなく、外国人の方向けに日本のルールを伝える意見交換会や懇談会を開いてはいかがでしょうか。また、困っている外国人の方の話聞いてあげることも重要だと思います。

回答 2-1: 平和台線の運行について

建設部長:平和台線については、現在、市が阪東自動車に運行経費を補助して運行しており、来年10月から、市のコミュニティバスとして本格運行を開始する予定です。運行時間帯については、現在と変わらない予定です。朝夕の便を増やすことも検討しましたが、運転手を増員する必要があり、全国的に運転手不足の問題があるため、運転手の確保が困難です。そのため、今のところ、本格運行後も現在と同じ時間帯での運行を予定しています。

回答 2-2: 布佐駅周辺の開発について

環境経済部長:布佐駅前のスーパーの跡地については、定期的に所有者にテナントが入る予定はないかと情報提供をいただいているのですが、2~3週間前に確認したところ、不動産業者に売却されたとのこと。今後、その購入者と連絡を取り、賑わいが出るような店舗の誘致について話をしていきたいと考えています。

回答 2-3: 外国人対応について

企画総務部長:外国人対応については、すでに日本語学校にお願いをしているだけでなく、すでに市職員が実際に日本語学校へ出向き、通訳を付けて講義を行っています。また、JR の職員も市職員と一緒に講義を行っています。今後、この取り組みを拡大していきたいと考えています。先ほど市長がお話しました通り、市も一緒になって取り組んでいきますので、そこはご理解ください。利根町の大学についても、利根町の職員が学校に入って講義を行いたいと考えているところですが、学

校のカリキュラムや受け入れの問題でまだ実現していません。我孫子市も利根町と一緒に、まずは外国人留学生向けにルールブックやハンドブックを配布するところから始めています。最終目標は、学校に入って直接学生に伝えることですので、今後も粘り強く取り組んでまいります。

また、布佐駅のトイレは改札外にあるため、市の管轄となります。備品の購入も市の予算で行っていますので、市としてしっかり対応してまいります。

質問・意見 3: 成田線 125 周年記念事業について

市民:資料の 7 ページに「成田線 125 周年記念事業」の記載がありますが、具体的な内容や予定は決まっていますか。

回答 3: 成田線 125 周年記念事業について

企画総務部長:すでに写真展などを開催していますが、今後は小中学生向けの絵画コンクールなども予定しています。成田線 125 周年については、成田線活性化推進協議会が主体となっており、我孫子市のほか、印西市、栄町、成田市、柏市、利根町の 6 市町が参加して記念事業の検討を進めております。以前 120 周年の際には、記念列車にヘッドマークを付けたり、10 万人で手を振るイベントを実施し、我孫子駅から成田駅までの住民や小中学生の皆さんに駅で旗を振っていただきました。今回も、市民の皆さんにご協力いただけるイベントも企画できればと考えています。記念事業については、ホームページや学校へのチラシ配布などで広く周知してまいりますので、ぜひご協力をお願いいたします。